

第51回 全国設備管理強調月間 作文 金賞
トヨタ自動車株式会社 元町工場 藤田 亮哉

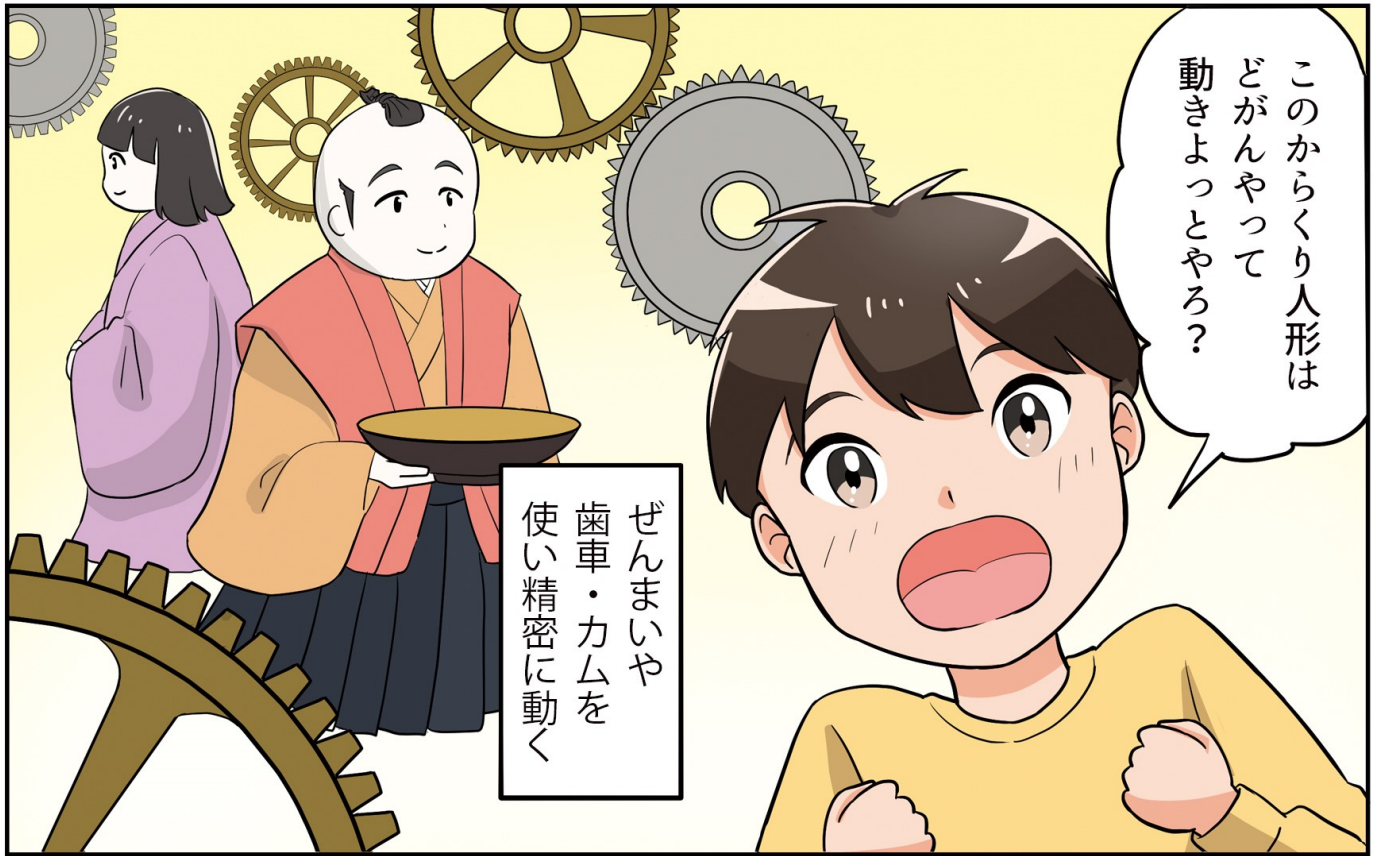


カーボンニュートラルへ 繋ぐ夢



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会

Japan Institute of Plant Maintenance



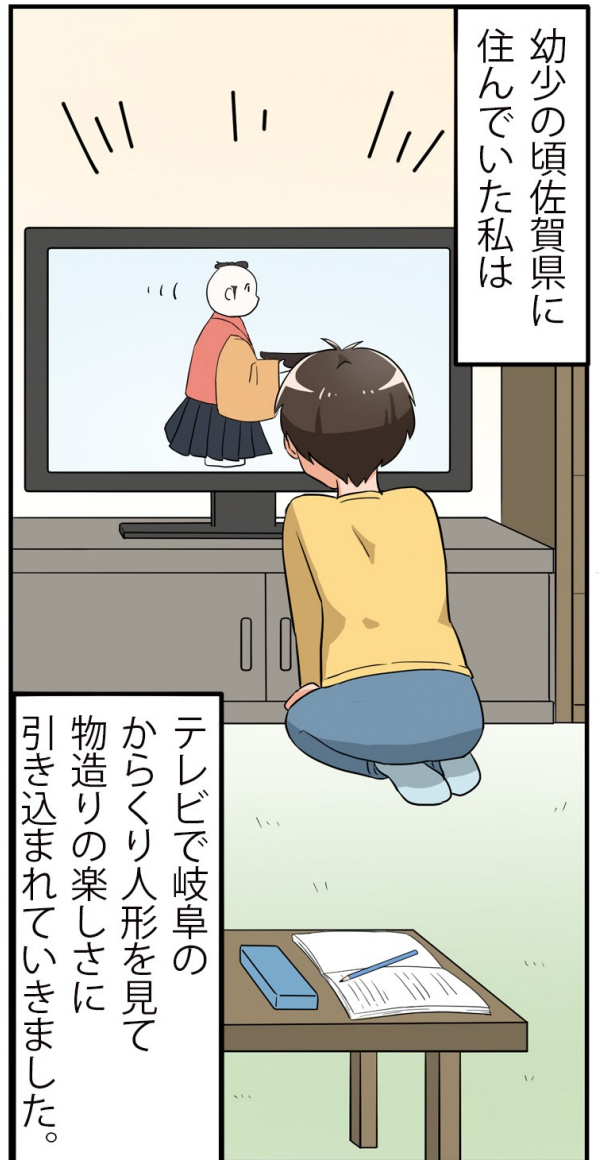
このからくり人形は
どがんでやって
動きよつとやるの？

ぜんまいや
歯車・カムを
使い精密に動く



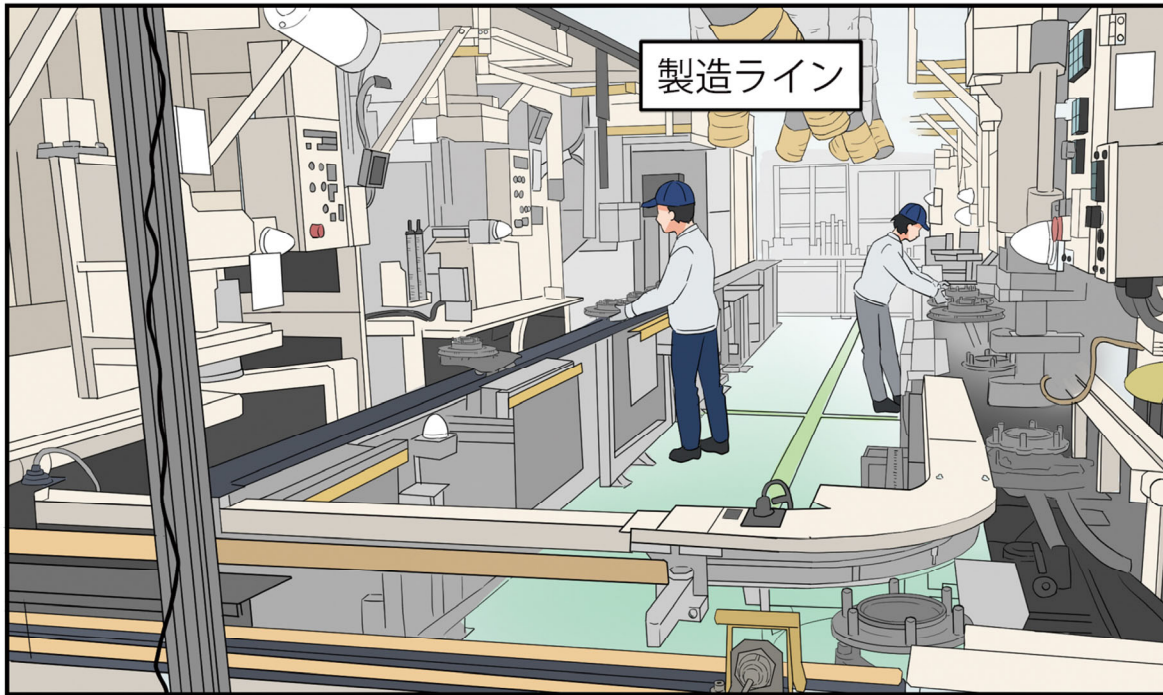
物を造る
仕事ばしたか！

その想いを抱きながら
愛知県の自動車会社に
入社しました。



幼少の頃佐賀県に
住んでいた私は

テレビで岐阜の
からくり人形を見て
物造りの楽しさに
引き込まれていきました。



製造ライン

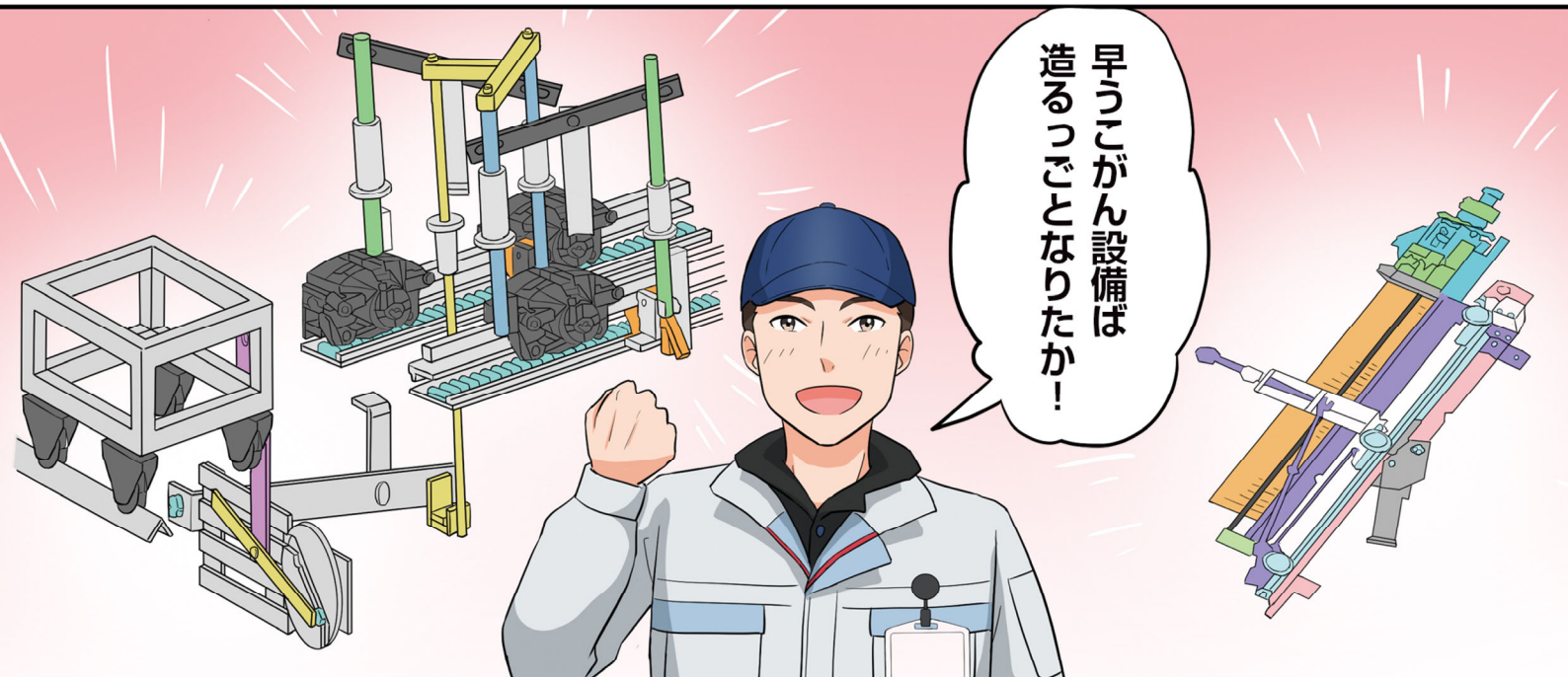
配属されたのは製造ラインの設備製作と修理をする改善職場で、私が望んでいた仕事でした。



設備であたりまえのように使われているからくり、先輩が造る物を見て心が躍る気持ちになりました。

動力を使わない「からくり」を推奨していました。

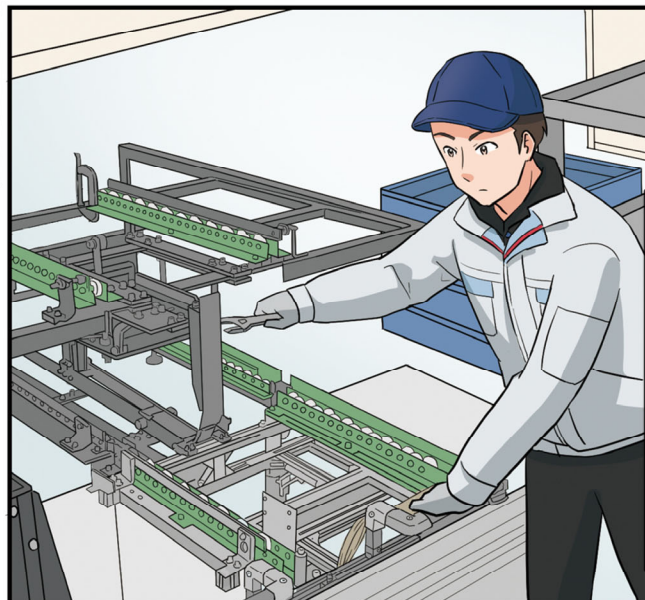
そこでは設備製作コストを下げるために、出来るだけ



早うごがん設備ば造るっごとなりたか！

それから6、7年経ち、
一人で仕事を任せて
もらえるようになった頃

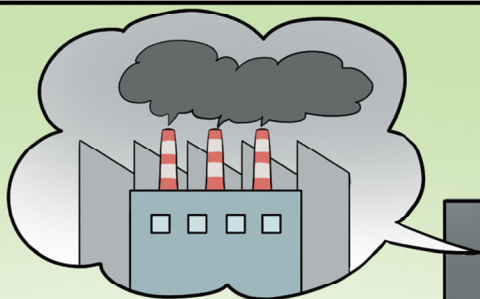
からくりの必要性を
一層高める時代が
やってきたのです。



それが

“カーボンニュートラル”。

からくりは、シリンダーや
モーターを使わないので
発電所の電力を使わなくて済む。



そのため、化石燃料を
燃やして発生する
CO₂の削減には
うってつけ。

それは私の仕事への
モチベーションを
押し上げました。

CO₂

CO₂

本を読み漁り機械の構造や
設備のメンテナンス方法を
学びました。



今までに無いからくりで設備を造る、
コスト削減も功を奏して、
上司にも認められるように
なってきたのが実感できた、

そんな最中のこと…

こんな設備いらん、
造り直してくれ！

私がからくりを取り入れ
製作した部品搬送機のこと
で製造現場の方から
電話で呼び出されたのです。

このからくりは
部品の重心で反転させ

進行方向を変えながら
3m移動することが
できるもの。

現場に着くとそこに
立っていたのは、

身長185cmで筋肉隆々の
森本さんでした。

お前か？

これを
造ったのは？



動作不良を直そうにも
機構が訳分らんぞ！

からくりじじいなら
やめてくれ！

一緒にいた
上司は平謝り。



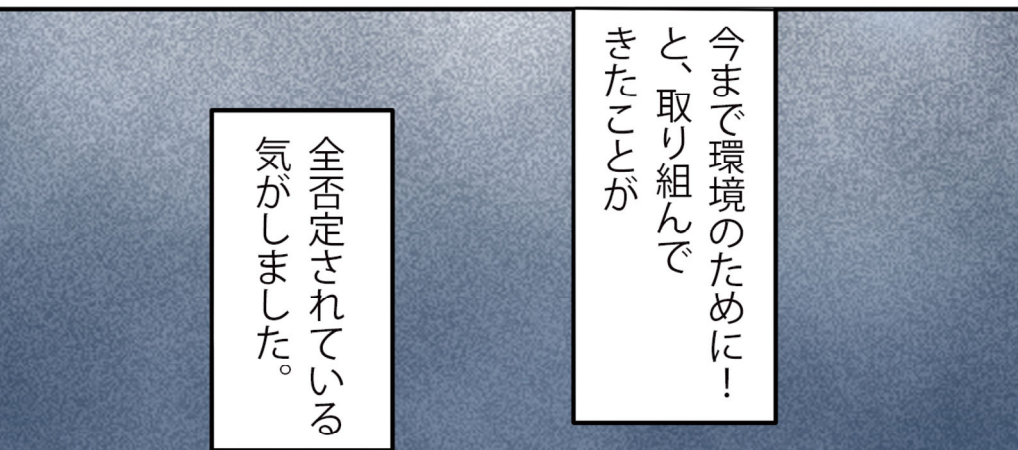
現場目線での造りが
疎かになっていったなあ

と上司から言われましたが
私の頭に入ってきませんでした。



「からくりじじい」

その言葉が
ショックでした。



今まで環境のために！
と、取り組んで
きたことが

全否定されている
気がしました。

自分たちが修理している間、
製造ラインを止めないように

森本さんは8kgある部品を
必死に運んでくれました。

早く
直さなければ！

取り付け治具の
ボルトを緩めようにも

工具のレンチが
設備のフレームに当たり
入りにくくやり辛い。

森本さんの汗を見ると、
自分が造った搬送機の
重要さにも気付かされました。

こがも迷惑
かけよったとか…

動作不良になった
原因はからくりの
摺動部の摩耗でした。

考えてみると自分は
「環境に良い物を！」と
からくりで製作する
ことしか頭になく、

学んだつもりだった
設備のメンテナンス・
自主保全の大切さが
頭から抜けてしまっ
ていました。

あくる日、
私は森本さんに
謝りに行きました。

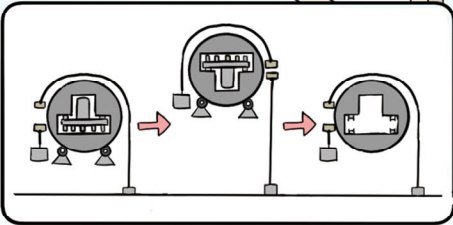


すると森本さんから
聞かれたのです。

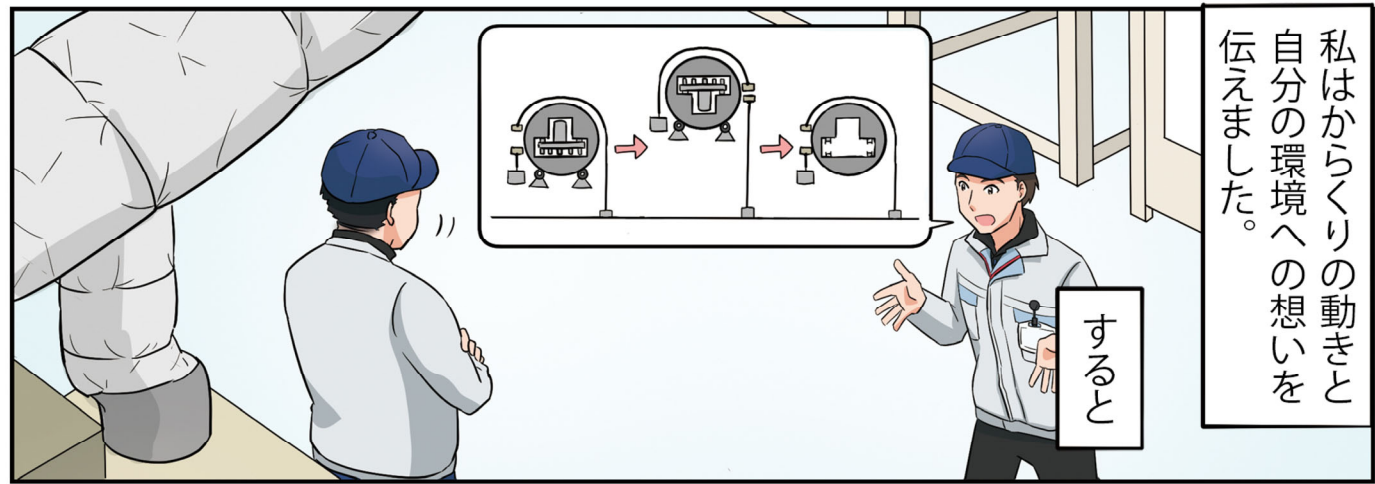
あれはどうやって
動いているんだ？



私はからくりの動きと
自分の環境への想いを
伝えました。

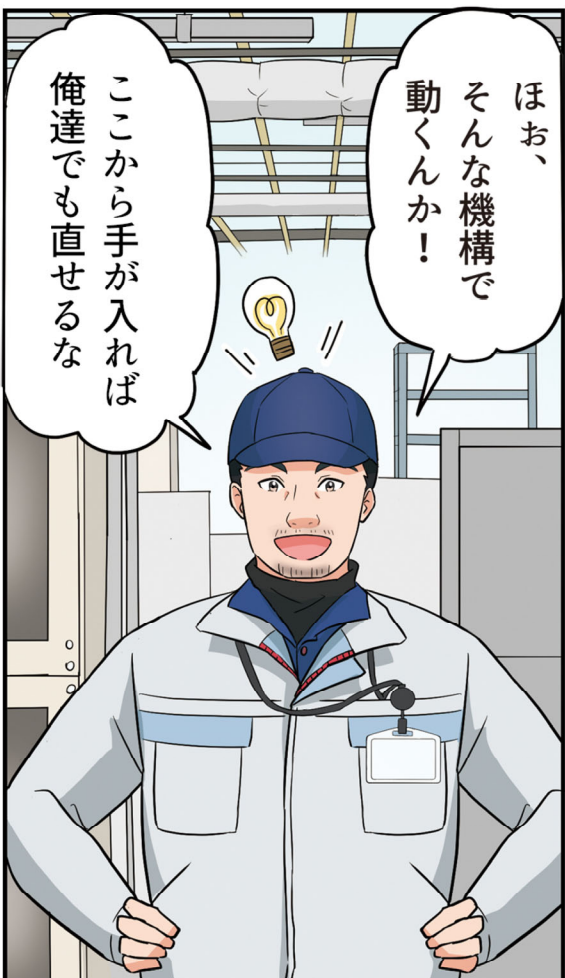


すると



ほお、
そんな機構で
動くんか！

ここから手が入れば
俺達でも直せるな



摺動部には定期的に
油を塗れば摩擦も
減らせるな





環境に良い設備、
お互いに造って
いこまーい！

この言葉を聞いた時、
私は勘違いしていたことに
気付かされました。



えっ！

そんなことまで
してくれるんですか？

当たり前だろ

設備の保全は
自分達の仕事！



岐阜のからくり人形が
常に素晴らしい動きをするのは、
造った人だけでなく

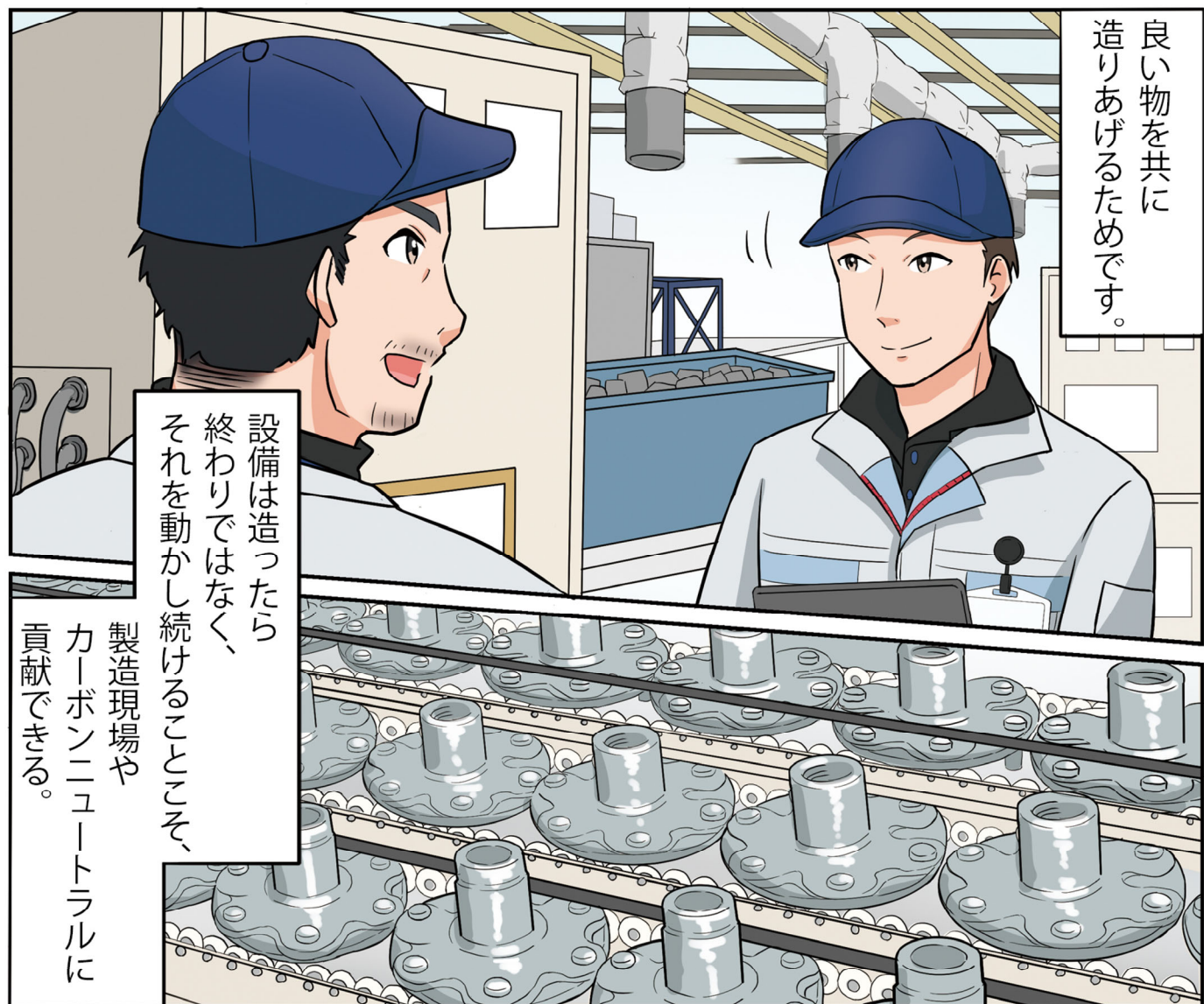
森本さんのように、
動き続けるよう日々
手入れをしてくれる人が
いるからこそだと！



それから私は設備を造る際、
必ず製造現場に足を運び、

からくりや保全性について
話し合います。

良い物を共に
造りあげるためです。

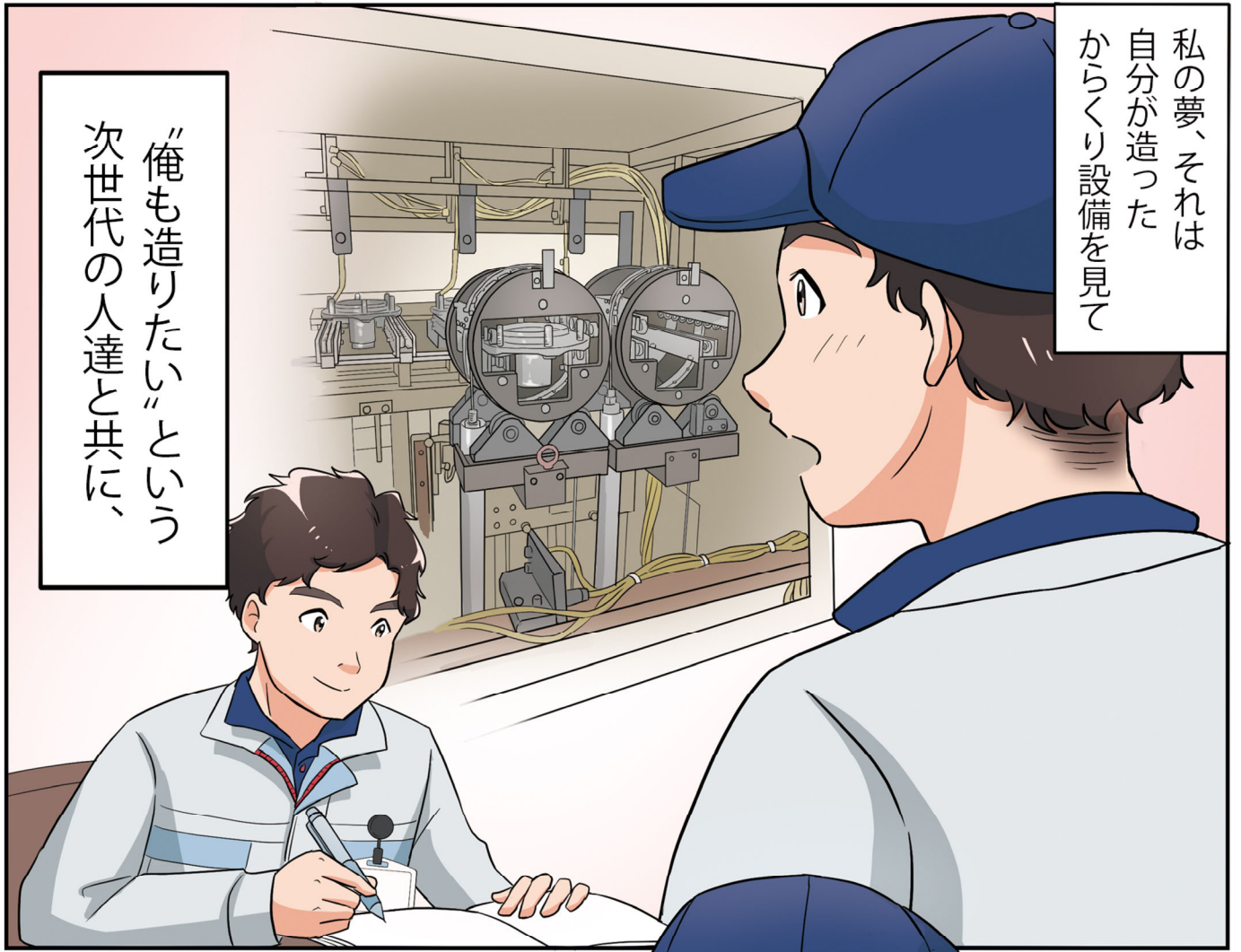


設備は造ったら
終わりではなく、
それを動かし続けることこそ、

製造現場や
カーボンニュートラルに
貢献できる。

私の夢、それは
自分が造った
からくり設備を見て

“俺も造りたい”という
次世代の人達と共に、



カーボンニュートラルを
繋げていくことです。



金賞

カーボンニュートラルへ繋ぐ夢

トヨタ自動車株式会社 元町工場

藤田 亮哉

「このからくり人形はどがんやって動きよっとやる？」ぜんまいや歯車・カムを使い精密に動く。幼少の頃佐賀県に住んでいた私はテレビで岐阜のからくり人形を見て、物造りの楽しさに引き込まれていった。「物を造る仕事ばしたか！」その想いを抱きながら愛知県の自動車会社に入社しました。

配属されたのは製造ラインの設備製作と修理をする改善職場で、私が望んでいた仕事でした。

そこでは設備製作コストを下げる為に、出来るだけ動力を使わない”からくり”を推奨していました。設備であたりまえの様に使われているからくり、先輩が造る物を見て心が躍る気持ちになった。「早うこがん設備ば造るっごとなりたか！」

それから6～7年経ち、一人で仕事を任せてもらえるようになった頃、からくりの必要性を一層高める時代がやってきたのです。それが”カーボンニュートラル”。からくりは、シリンダーやモーターを使わないので発電所の電力を使わなくて済む。その為、化石燃料を燃やして発生するCo2の削減にはうってつけ。

それは私の仕事へのモチベーションを押し上げました。本を読み漁り機械の構造や設備のメンテナンス方法を学びました。

今までに無いからくりで設備を造る、コスト削減も功を奏して、上司にも認められるようになってきたのが実感できた、そんな最中である。「こんな設備いらん、造り直してくれ！」私がかからくりを取り入れ製作した部品搬送機の事で製造現場の方から電話で呼び出されたのでした。このからくりは部品の重心で反転させ進行方向を変えながら3m移動する事ができる。

現場に着くとそこに立っていたのは、身長185cmで筋肉隆々の森本さんだった。「お前か？これを造ったのは？動作不良を直そうにも機構が訳分らんぞ！からくりごっこならやめてくれ！」

一緒にいた上司は平謝り。「現場目線での造りが疎かになっていたなあ」と上司から言われましたが、私の頭に入ってきてませんでした。「からくりごっこ」

その言葉がショックだった。今まで環境の為に！と、取り組んできた事が全否定されている気がした。

自分たちが修理している間、製造ラインを止めないように森本さんは8kgある部品を必死に運んでくれていた。「早く直さなければ！」取り付け治具のボルトを緩めようにも工具のレンチが設備のフレームに当たり入りにくくやり辛い。森本さんの汗を見ると、自分が造った搬送機の重要さにも気付かされた。

「こがも迷惑かけよったとか・・・」動作不良になった原因はからくりの摺動部の摩耗でした。考えてみると自分は「環境に良い物を！」とからくりで製作する事しか頭になく、学んだつもりだった設備のメンテナンス・自主保全の大切さが頭から抜けてしまっていた。あくる日私は謝りに行きました。すると森本さんから「あれはどうやって動いているんだ？」と聞かれたのです。私はからくりの動きと自分の環境への想いも伝えました。森本さんは「ほお、そんな機構で動くんか！ここから手が入れば俺達でも直せるな、摺動部には定期的に油を塗れば摩耗も減らせるな」「えっ！そんな事までしてくれるんですか？」「当たり前だろ、設備の保全は自分達の仕事！環境に良い設備、お互いに造ってこまい！」この言葉を聞いた時、私は勘違いしていたのに気付かされました。岐阜のからくり人形が常に素晴らしい動きをするのは、造った人だけでなく森本さんのように、動き続けるよう日々手入れをしてくれる人がいるからこそだと！

それから私は設備を造る際、必ず製造現場に足を運び、からくりや保全性について話し合います。良い物を共に造りあげる為です。設備は造ったら終わりではなく、それを動かし続ける事こそ、製造現場やカーボンニュートラルに貢献できる。

私の夢、それは自分が造ったからくり設備を見て”俺も造りたい”という次世代の人達と共に、カーボンニュートラルを繋げていく事です。